科目名	ビジネ	ス教養	英文名	Business	Business education					
担当者		広瀬 繁	実務経験 の有無	無	選択				目・演習	
開講期	通年 前期:1時間(回数:16回) 後期:1時間(回数:16回)							授業時数	32 時間	
教材 教具	これだけは知っておきたい!面接対策&ビジネスマナー<ウイネット> 就職筆記試験対策問題集 一般常識・SPI3<ウイネット>									

【学修内容】科目のねらい(目的)

- 《前期》社会人基礎力の向上をめざし、就職活動に活かせる文章力を習得する。
 - ①文章の基礎を理解する。
- ②自己 PR の文章力を身につける。 《後期》企業の求める人材について、自己分析をもとに検証する。 就職試験に必要な一般常識を習得する。

【授業計画】 コマシラバス(前 集 1 導入 履歴書 エントリーシート 2 自己理解(将来のことを考える) 3 今までがんばってきたこと 4 好きなこと、嫌いなこと 5 長所、短所(長所を整理)	,	1 2 3 4	コマシラバス (後 期) 導入 漢字の読み ビジネス用語 漢字の書き取り
2 自己理解(将来のことを考える) 3 今までがんばってきたこと 4 好きなこと、嫌いなこと	について	2 3	漢字の書き取り
3 今までがんばってきたこと 4 好きなこと、嫌いなこと		3	
4 好きなこと、嫌いなこと			
		4	同音異義語
5 長所、短所(長所を整理)		4	同義語・類義語・対義語
		5	ことわざ・四字熟語・敬語
6 自身の強みを見つけよう		6	計算 基礎 速さ 損益計算
7 自己PRの書き方		7	割合 濃度 通過算
8 ●中間試験:「自己 PR200 字作文」		8	●中間試験:「一般問題」
9 出題意図を考える		9	日本地理・世界地理
10 文章構成を考える		10	日本国憲法の特徴・基本的人権
11 原稿用紙の使い方		11	三権分立・国会 二院制
12 「テーマ」による作文練習 1		12	経済のしくみ
13 「テーマ」による作文練習 2		13	社会保障制度 雇用と労働
14 「テーマ」による作文練習 3		14	英単語、文法
15 「自己 PR800 字」作文		15	一般常識模擬問題
16 ●期末試験:「自己 PR600 字作文」		16	●期末試験:「一般問題・SPI」
(1-30, 30, 5.15)			して、解説と問題演習を中心に行う 対策問題集(ウイネット)
到達目標 《前期》履歴書、エン 《後期》年度内の就職P	•		は験等に役立つ自己 PR の文章を作成できること。 権目標とする。
成績評価の 《通期》(中間試験+ 方法と基準 認定とする。	+出席態度点 20 点なお、出席率 70%以上を単位		
授業時間以外 に必要な学修 (通期)授業予定に	あわせて、問題	集・	作文の反復による予習・復習を心掛けること
			の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、授業に取り かなどの平素の行動を評価するものである。

科目名	自動車	自動車工学 車の構造・性能①	英文名		Automotive Engineering Structure Performance					
担当者		小川 栄二	実務経験 の有無	無	無 選択 必修 A 必修 区				目・講義	
開講期	通年	前期:2時間(回数	: 32 回)	後期: 2時	授業時数	64 時間				
教材教具	三級自	動車整備士(総合)<	日本自動車整備	振興会>						
担当者の 実務経験	自動車	自動車ディーラーにて自動車整備								

【学修内容】科目のねらい(目的)

自動車の歴史、基礎原理・法則、各構成装置の仕組みを学ぶ。エンジン及びシャシの各構成部品の名称をはじめ、構造及び性能につい

て、正	しく理解する。						
【授美	業計画】 コー	マシラバス(前 期)		コマシラバス(後 期)			
1	自動車の概要	歴史、分類 構成	1	エンジン構成部品 タミングチェーン (ギヤ、ベルト)			
2	自動車の機械要	素 ねじ、スプリング等	2	タペット、プッシュロッド			
3	基礎的な原理・熱、力、仕事と	法則 エネルギ、圧力と応力	3	潤滑装置 オイルストレーナ、オイル・ポンプ			
4	エンジン 原理 燃焼、ノッキン	、作動 グ、バルブ・タイミング	4	トロコイド式、ギヤ式			
5 6	中間試験事前ま ●前期中間試験	とめ 単元テスト	5 6	潤滑装置 オイルフイルター、オイルパン オイル・ギャラリ潤滑の流れ			
7	4サイクルエン	ジン、2 サイクルエンジン	7	●後期中間考査			
8	吸入、圧縮、燃	焼、排気	8	冷却装置 水冷式、空冷式 ラジエータ、ウォータ・ポンプ			
9	エンジン構成部	品 シリンダヘッド、シリンダ・ブロック	9	冷却装置 サーモスタット、ラジエータ・キャップ ファン 冷却水			
10	ピストン、ピス	トンリング	10	吸排気装置 エア・クリーナ、インテークマニホールド			
11	単元まとめ		11	エキゾースト・マニホールド、マフラ			
12		品 コンロッド、ベアリング ト、フライホイール	12	燃料装置 ガソリン・エンジン、ジーゼル・エンジン			
13		品 コンロッド、ベアリング ト、フライホイール	13 インジェクタ、フューエル・ポンプ				
14	前期まとめ		14	排出ガス浄化装置 CO、HC、NO _X			
15	単元小テスト		15	後期まとめ 単元小テスト			
16	前期末考査		16	●学年末考査			
	授業方法 業の進め方)		本時の	養形式で行う。基本的には前回の復習から りまとめへと展開する。状況に応じカット・ より具体的に説明する。			
Ţ,	到達目標	ルを到達目標とする。		び構造・性能について、三級自動車整備士レベ			
′ ′	え績評価の		•	て テスト:80% 出席率:10% 授業態度:10%			
-	法と基準	以上3項目を合計し、100点法で算	算出の	うえ 60 点以上を認定とする。			
42 42 1 4	時間以外に必 要な学修	《通期》授業予定にあわせて、問	題集の	反復による予習 ・ 復習を心掛けること。			
履修	に当たっての 留意点			私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、授業に取 うかなどの平素の行動を評価する。			

					**	授業の1	里 似时	間は 45 2	分とする	
科目名	自動車	自動車工学 車の構造・性能②	英文名		Automotive Engineering Structure Performance					
担当者	担当者小川 栄二実務経験 の有無				選択 必修	必修	科目 区分	専門科	目・講義	
開講期 通年 前期:2時間(回数:32回) 後期:2時間(回数:32回) 授業時数 64時間								64 時間		
教材教具	三級自	動車整備士(総合)<	日本自動車整備	振興会>						
担当者の 実務経験	自動車ディーラーにて自動車整備									
【学修内容】科目のねらい(目的) 自動車の歴史、基礎原理・法則、各構成装置の仕組みを学ぶ。エンジン及びシャシの各構成部品の名称をはじめ、構造及び性能につい										

自動	車の歴史、基礎原	理・法則、各構成装置の仕組みを学ぶ。エン	ノジン及	びシャシの各構成部品の名称をはじめ、構造及び性能につい
	しく理解する。			
【授美	だ計画】 コマ	マシラバス(前 期)		コマシラバス(後 期)
1		の運動性能 走る、止まる、曲がる クラッチ構成部品、操作機構	1	緩衝装置 ショックアブソーバ 構成部品、作動
2		ョン M/T 構成部品 シンクロ機構	2	サスペンションの種類 (二輪車を含む)
3		マンバータ 変速機構 遊星歯車式	3	ステアリング装置 旋回時に発生する力
4		車)ファイナルギヤ及びディファレンシャ み	4	種類、操作機構、構成部品
5	単元小テスト		5	パワー・ステアリング 油圧式、電動式
6	●前期中間試験		6	単元小テスト
7	CVT 油圧制御装置	置 二輪車トランスミッション	7	●後期中間考査
8	アクスル及びサン	スペンション 車軸懸架式、独立懸架式	8	ホイール及びタイヤ 構造・機能 構成部品 タイヤサイズ
9	アクスル (二軸	論車を含む)	9	ホイール・アライメント トーイン、キャンバ、キャスタ、SAI
10	トランスファ、こ	プロペラ・シャフト構成部品	10	ブレーキ装置 ドラム・ブレーキ
11	ドライブ・シャフ	フト ユニバーサル・ジョイント	11	ディスク・ブレーキ、パーキング・ブレーキ
12	スプリング リー	ーフスプリング、コイルスプリング	12	制動倍力装置、ブレーキ液
13	ステアリング装置	置 旋回時に発生する力	13	ブレーキ装置 フル・エアブレーキ
14	種類、操作機構、	、構成部品	14	フレーム及びボデー、ドア・ロック、塗装
15	単元小テスト		15	後期まとめ 単元小テスト
16	●前期末考査		16	●学年末考査
	受業方法 業の進め方)		本時の	義形式で行う。基本的には前回の復習から)まとめへと展開する。状況に応じカット・ より具体的に説明する。
-	到達目標	エンジン・シャシの各構成部品のルを到達目標とする。	名称 及	び構造・性能について、三級自動車整備士レベ
成	え 積評価の		におい	て テスト:80% 出席率:10% 授業態度:10%
力	法と基準	以上3項目を合計し、100点法で算	算出の	うえ 60 点以上を認定とする。
授業	時間以外に必			
	要な学修	《通期》授業予定にあわせて、問	題集の	反復による予習・復習を心掛けること。
履修	に当たっての	《通期》授業能度占け 欠度 授	業中の	私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、授業に取
	留意点			うかなどの平素の行動を評価する。
		<u> </u>		

の留意点

		-									
							>	(授業の	1 単位時	計間は 45 分	とする
科目	力	白動	車工学 力学、数学	英文名		Au	tomo	otive En	gineerin	ng	1-4
17 [171	日野口	半工于 刀子、奴于	光 人石		(D <u>:</u>	ynan	nics Ma	thematic	ce)	1-4
担当	省		小川 栄二	実務経験 の有無	1	⊐	選択 公修	必修	科目 区分	専門科目	・講義
開請	構期 前	期	前期:2時間(回数:	16 回)	後期]: 時	間(回数:	回)	授業時数	32 時間
教教		. —	- 備士 計算の基礎と問題 車整備士(総合)<日2			祖会>					
担当		L 197	<u>中型加工(応日)(日)</u>	1.口为一正	VIII 1/4	<u> </u>					
の実経	寒務 自動	車デ	ィーラーにて自動車整備	带							
	【学修内容】科目の狙い(目的) ・各種計算問題など理論や公式を正しく理解し、答えを導き出せるよう指導する。										
	百年日 奔	1111/622	なと理論(五八七正し、	く生併し、	7 1 7 7 1	C + C L	цСа	カマ <u>7.1</u> 日	寸 タ ひ。		
	【授業計	画】	コマシラバス(前	期)			コ	マシラ	バス(後	期)	
1	SI単位、	基本	単位と組立単位								
2	四則計算、	分数	の足し算、引き算、掛け算	、割り算							
3	方程式、害	引合と.	比、比例式、時間と距離・	速さ							
4	トルクと俳	喝力、	ばね定数、熱膨張								
5	直列回路、	並列	回路の合成抵抗計算								
6	オームの法	法則、'	電力量、電圧降下計算								
7	ギヤ比、遊	5星歯	車計算								
8	まとめ 中	間試	験								
9	荷重割合										
10	等速運動	(車速	、平均ピストン速度等)								
11	等加速度過	動									
12	前時間の復	習 (v — t 線図)								
13	自動車の諸	計元 (排気量、圧縮比等)								
14	仕事と仕事	率	自動車の走行抵抗、エンジ	ン出力							
15	圧力、トル	·ク(·	モーメント)、平行力の合成	え・分解							
16	各種計算問	問題	前期末試験								
	授業方法業の進めた	<i>⊢</i>)	教科書を中心に BIG I じまり 本時の目標 及び ントを取り入れ、より5	び本時のま	とめ	〜と展開	開する	· -			-
į	各項目における基礎・基本が理解できていること。 計算問題については、公式を 到達目標 正しく理解し、また応用力をもとに正しく答えが導きさせること。さらに単元ごとに 小テストを行い、到達度 70%以上を目標とする。										
	成績評価の 中間・期末考査において テスト:80% 出席率:10% 授業態度:10%以上3項目を 方法と基準 合計し、100点法で算出のうえ 60点以上を認定とする。										
	授業時間以外に ・自宅学習により当該科目の予習・復習を心掛ける。 ・課題やレポート等の提出は提出期日を厳守する。										
履修	をに当たっ	て	授業態度点は、授業に	中の私語や	居眠	<u></u> り、机」	上整	理や言葉	東遣い、 ⁵	積極的に取	り組む

姿勢など平素の行動を評価するものである。 また、出席数は一種養成施設指定校と

しての基準を満たす必要がある。

科目名	自動車	工学 電気・電子理論	英文名	(El	g eory)	1-5			
担当者		永岡 淳	実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目	・講義
開講期	前期	前期:2時間(回数	: 16 回)	後期:	時間(回数:	回)	授業時数	32 時間
教材 教具	三級自	三級自動車整備士(総合)<日本自動車整備振興会>							
担当者の 実務経験	自動車	自動車ディーラーにて自動車整備							

【学修内容】科目の狙い(目的)

自動車工学における電気・電子の基礎を中心に電子制御回路など幅広く学び、新技術に対応でき

Ž	る基礎的な知識を身に付ける。									
	【授業計画】	コマシラバス (前 期)		コマシラバス(後 期)						
1	導入 小テストに	こよるレベルチェック	1							
2	電気とは 電子	・電流・電圧・電位差など	2							
3	電流の3作用 素	熱・化学・磁気・交流・直流など	3							
4	電気用図記号 部	8品特性と回路図	4							
5	オームの法則 下 電力など	十算式(電圧・電流・抵抗の関係)電圧降	5							
6	半導体及びコンラ	デンサ 働きとその特徴 種類など	6							
7	磁束及び磁界 電	電磁力及び電磁誘導 起電力など	7							
8	まとめ 前期中間	引試験	8							
9	バッテリ 極板の	つ種類と特徴 構造及び機能など	9							
10	始動装置 スター	ータの構造及び機能 電磁力及び回路図な	10							
11	充電装置 オルタ 電回路など	タネータの構造及び機能 整流作用及び充	11							
12	点火装置 自己認	秀導作用及び相互誘導作用 マイコン制御	12							
13	電子制御装置の棚	既要 吸入系統及び燃料系統	13							
14	灯火装置及び計器	景類 概要及び構造・機能	14							
15	安全装置及び空訓	間システム	15							
16	まとめ 前期末記	式験	16							
(授	授業方法 業の進め方)		とめ	構養形式で行う。基本的には前回の復習からはじまへと展開する。状況に応じ カット・モデルや各種 なに説明する。						
	到達目標	自動車工学における電気・電子 ベルを到達目標とする。	- 理論	後の基礎知識について、三級自動車整備士レ						
· ·	成績評価の 方法と基準	前期2回の中間・期末考査にま 3項目を合計し、100点法で算出		・テスト:80% 出席率:10% 授業態度:10%以上 え 60 点以上を認定とする。						
	業時間以外に 必要な学修	・自宅学習により当該科目の予覧 ・課題やレポート等の提出は提出								
履個	多に当たって の留意点			民り、机上 整理や言葉遣い、積極的に取り組む である。 また、出席数は一種養成施設指定校と						

科目名	(材料、)	自動車工学 燃料、潤滑剤、図面)	英文名		Automotive Engineering (Material Fuel&Luburicant Drawing)					
担当者		小川 栄二	実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目	・講義	
開講期	後期	前期: 時間(回数:	回)	後期:2時間(回数:16回) 授業時数 32時						
教材教具	三級自動	機械製図ワークノート<実教出版> 三級自動車整備士(総合)<日本自動車整備振興会> 二級自動車整備士(総合)<日本自動車整備振興会>抜粋								
担当者 の実務 経験	自動車デ	自動車ディーラーにて自動車整備								

【学修内容】科目の狙い(目的)

- ・JIS 規格及び機械分野の製図について、基礎的な知識と技術を身につける。
- ・自動車の材料の分類、材料記号、機械的性質、熱処理、及び非鉄金属について正しく理解する。
- ・燃料及び潤滑剤等の規格や性状について、基礎的な知識を身につける。

I	【授業計画】	コマシラバス(前 期)		コマシラバス(後 期)					
			1	図面の重要性、JIS規格、文字の練習					
			2	補助記号、線の種類・用途					
			3	線の練習(直線・円弧からなる図形)					
			4	用器画による平面図形の作図					
			5	第3角方による投影法の基礎					
			6	前回のつづき(問題練習)					
			7	等角図による品物の見取り図の練習					
			8	まとめ 前期中間試験					
			9	製作図の寸法記入、断面図示法					
			10	機械要素(ねじ等)の図示図					
			11	材料の分類、材料記号(JIS規格)					
			12	鉄鋼の分類と用途					
			13	金属材料の機械的性質と試験機					
			14	熱処理法と性質の変化					
			15						
			16	燃料、潤滑剤 まとめ 前期末試験					
1, 1,	業方法 の進め方)		とめ	講義形式で行う。項目ごとに前回の復習からは へと展開する。状況に応じ練習問題や課題プリ う努める。					
到	達目標		テス	ていること。また応用力をもとに正しく答えが導 トを行い、到達度 70%以上を目標とする。製図に が出る。					
, ,	責評価の 忠と基準	中間・期末考査において テスト 合計し、100点法で算出のうえ 60		10% 出席率:10% 授業態度:10%以上3項目を 以上を認定とする。					
	持間以外に 要な学修	・自宅学習により当該科目の予習 ・課題やレポート等の提出は提出							
,,	こ当たって 留意点			り、机上 整理や言葉遣い、積極的に取り組む ある。 また、出席数は一種養成施設指定校と					

科目名 自動車整備関連 (エンジン又はモータ) 英文名 Automobile maintenance related (Engine or motor) 1-7 担当者 広瀬 繁 実務経験 の有無 有 選択 必修 必修 科目 区分 専門知識・講義 関講期 前期 前期:2時間(回数:16回) 後期: 時間(回数:16回) 後期: 時間(回数: 回) 授業 時数 32時間 教材 教具 三級自動車整備士(総合) 日本自動車整備振興会> 担当者 の実務 経験 自動車ディーラーにで自動車整備		MOOK - I PER VINCE IS NOT EXP									
担当者 広瀬 繁 実務経験 の有無 の有無 の有無 の有無 が 必修 必修 必修 区分 科目 区分 専門知識・講義 開講期 前期 前期:2時間(回数:16回) 後期: 時間(回数: 回) 授業 時数 32時間 教材 教具 三級自動車整備士(総合) <日本自動車整備振興会> 担当者 の実務 自動車ディーラーにて自動車整備	科目名			英文名	Aut						
開講期 則期:2時間(回数:16回) 後期:時間(回数:回)時数 32時間 教材 教具 三級自動車整備士(総合) 日本自動車整備振興会> 担当者 の実務 自動車ディーラーにて自動車整備	担当者	,			有	選択 以修 科目			専門知	識・講義	
教具 二級目動車整備士(総合) 日本目動車整備振興会> 担当者 の実務 自動車ディーラーにて自動車整備	開講期	前期									
の実務 自動車ディーラーにて自動車整備		三級自動車	整備士(総合) <f< td=""><td>日本自動車團</td><td> 修備振興</td><td>会></td><td></td><td></td><td></td><td></td></f<>	日本自動車團	 修備振興	会>					
	の実務	自動車ディーラーにて自動車整備									

【学修内容】科目のねらい(目的)

エンジン整備における、各項目の分解・点検・組付け方法など具体的に説明し、故障探求や良否判 定及び整備の方法について、正しく理解する。

	足及び整備の方法について、正して理解する。									
【挖	受業計画】 コマ	マシラバス (前 期)	コマシラバス(後 期)							
1	エンジン本体整備	① P. 72	1							
2	エンジン本体整備	② P. 77	2							
3	潤滑装置 P.91		3							
4	冷却装置 P.98		4							
5	吸排気装置 P.104		5							
6	燃料装置 P.110		6							
7	前期中間試験		7							
8	エンジン電気装置	P. 143	8							
9	始動装置 P.147		9							
10	充電装置 P.151		10							
11	点火装置 P.157		11							
12	予熱装置 P. 159		12							
13		(1 概要、点検・整備①)	13							
14	点検整備②		14							
15 16	点検整備③ 前期期末試験		15 16							
	美方法 受業の進め方)	じまり 本時の目標(狙い)及								
到這		エンジン又はモータの各構成部 士レベルを到達目標とする。	B品の名称 及び点検・整備について、三級自動車整備							
	責評価の 去と基準		おいて テスト:80% 出席率:10% 授業態度:10% で算出のうえ 60点以上を認定とする。							
授業時間以外に必 ・自宅学習により当該科目の予習・復習を心掛ける。 要な学修 ・課題やレポート等の提出は提出期日を厳守する。										
履修留意	をに当たっての 賃点		業中の私語や居眠り、机上 整理や言葉遣い、積極的に取り組む 動を評価するものである。 また、出席数は一種養成施設指定校と す必要がある。							

						/•(1)\/\/\/\/	± 1 1±2,	11円14年10万			
科目名	自動車	を備関連(シャシ)	英文名	Auto	Automobile maintenance related (Chassis)						
担当者	小川 栄二		実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目	・講義		
開講期	前期	後期:	時間(回数:	回)	授業時数	32 時間				
教材 教具	三級自動	三級自動車整備士(総合)<日本自動車整備振興会>									
担当者 の実務 経験	自動車デ	自動車ディーラーにて自動車整備									

【学修内容】科目の狙い(目的)

シャシ整備の各項目における分解・点検・組付け方法など具体的に説明し、良否の判定及び整備の 方法について、正しく理解する。

【授業計画】 コマシラバス (前 期) コマシラバス (後 期) 1 動力伝達装置 分解・点検・調整方法 2 アクスル及びサスペンション 2 車軸懸架・独立懸架・スプリングの分解・点検 3 4 ステアリングを置 4 5 ステアリングの種類・点検・調整・分解方法 6 ホイール及びタイヤ 6 タイヤ・ホイールの種類、整備点検・調整・整備方法 法 後期中間試験 8 8 9 ホイール・アライメント 9 10 トー・キャンバ・キャスタ調整・整備方法 11 ブレーキ装置 11 プレーキ装置 11 フート・ブレーキ装置 11 12 フート・ブレーキ装置 12 フーム及びボデー自動車の分類と部位名 13 14 シャシの点検・整備 14 15 不具合現象と点検・調整方法 15 学年末試験 16 学年末試験 16 学年末試験 17 2 数科書を中心に BIG PAD を使用し、講義形式で行う。基本的には前回の復置 投業方法 (授業の進め方) 数科書を中心に BIG PAD を使用し、講義形式で行う。基本的には前回の復置 フレーム及びボテー自動車シャンの各項目における分解・点検・組付け及び故障探求の方法につ	
アクスル及びサスペンション 車軸懸架・独立懸架・スプリングの分解・点検 ステアリング装置	
車軸懸架・独立懸架・スプリングの分解・点検 3 4 ステアリング装置 4 4 5 5 5 ステアリングの種類・点検・調整・分解方法 5 6 6 タイヤ・ホイールの種類、整備点検・調整・整備方法 7 法 8 後期中間試験 8 9 ホイール・アライメント 9 10 トー・キャンバ・キャスタ調整・整備方法 11 ブレーキ装置 11 ブレーキ装置 11 ブレーキ装置 11 12 フート・ブレーキ装置の点検と調整及び整備 12 13 フレーム及びボデー自動車の分類と部位名 13 14 シャシの点検・整備 14 15 不具合現象と点検・調整方法 15 16 学年末試験 16	
4 ステアリング装置 4 5 ステアリングの種類・点検・調整・分解方法 5 6 ホイール及びタイヤ タイヤ・ホイールの種類、整備点検・調整・整備方 法 8 後期中間試験 8 9 ホイール・アライメント 9 10 トー・キャンバ・キャスタ調整・整備方法 11 ブレーキ装置 11 ブレーキ装置 11 ブレーキ装置 12 フート・ブレーキ装置の点検と調整及び整備 12 13 フレーム及びボデー自動車の分類と部位名 13 14 シャシの点検・整備 14 15 不具合現象と点検・調整方法 15 16 学年末試験 16 学年末試験 16 数科書を中心に BIG PAD を使用し、講義形式で行う。基本的には前回の復習 じまり 本時の目標 及び本時のまとめへと展開する。状況に応じ練習問題や調ントを取り入れ、より理解を深めるよう努める。	
5 ステアリングの種類・点検・調整・分解方法 5 6 ホイール及びタイヤ 6 7 法 7 8 後期中間試験 8 9 ホイール・アライメント 9 10 トー・キャンバ・キャスタ調整・整備方法 10 11 ブレーキ装置 11 12 フート・ブレーキ装置の点検と調整及び整備 12 13 フレーム及びボデー自動車の分類と部位名 13 14 シャシの点検・整備 14 15 不具合現象と点検・調整方法 15 16 学年末試験 16 授業方法 (授業の進め方) 数科書を中心に BIG PAD を使用し、講義形式で行う。基本的には前回の復習じまり 本時の目標 及び本時のまとめへと展開する。状況に応じ練習問題や課ントを取り入れ、より理解を深めるよう努める。 自動車シャシの各項目における分解・占給・組付け及び故障控束の方法につまました。	
6 ホイール及びタイヤ タイヤ・ホイールの種類、整備点検・調整・整備方 7 法 後期中間試験 8 9 ホイール・アライメント 9 10 トー・キャンバ・キャスタ調整・整備方法 10 11 ブレーキ装置 11 ブレーキ装置 11 ブレーキ装置 11 ブレーキ装置 12 フート・ブレーキ装置の点検と調整及び整備 12 13 フレーム及びボデー自動車の分類と部位名 13 14 シャシの点検・整備 14 15 不具合現象と点検・調整方法 15 学年末試験 16 学年末試験 2 数科書を中心に BIG PAD を使用し、講義形式で行う。基本的には前回の復置 授業方法 (授業の進め方) 数科書を中心に BIG PAD を使用し、講義形式で行う。基本的には前回の復置 じまり 本時の目標 及び本時のまとめへと展開する。状況に応じ練習問題や課ントを取り入れ、より理解を深めるよう努める。	
7 タイヤ・ホイールの種類、整備点検・調整・整備方	
イ 8 後期中間試験 8 9 ホイール・アライメント 9 10 トー・キャンバ・キャスタ調整・整備方法 10 11 ブレーキ装置 11 12 フート・ブレーキ装置の点検と調整及び整備 12 13 フレーム及びボデー自動車の分類と部位名 13 14 シャシの点検・整備 14 15 不具合現象と点検・調整方法 15 16 学年末試験 16 授業方法 (授業方法 (授業の進め方) 教科書を中心に BIG PAD を使用し、講義形式で行う。基本的には前回の復習じまり 本時の目標 及び本時のまとめへと展開する。状況に応じ練習問題や講立トを取り入れ、より理解を深めるよう努める。 自動車シャシの各項目における分解・占給・組付け及び故障探索の方法につ	
9 ホイール・アライメント 10 トー・キャンバ・キャスタ調整・整備方法 11 ブレーキ装置 12 フート・ブレーキ装置の点検と調整及び整備 12 フート・ブレーキ装置の点検と調整及び整備 13 フレーム及びボデー自動車の分類と部位名 13 14 シャシの点検・整備 14 5 不具合現象と点検・調整方法 16 学年末試験 16 学年末試験 16 教科書を中心に BIG PAD を使用し、講義形式で行う。基本的には前回の復習しまり 本時の目標 及び本時のまとめへと展開する。状況に応じ練習問題や課ントを取り入れ、より理解を深めるよう努める。 自動車シャシの各項目における分解・占給・組付け及び故障探求の方法につ	
10 トー・キャンバ・キャスタ調整・整備方法 10 11 ブレーキ装置 11 12 フート・ブレーキ装置の点検と調整及び整備 12 13 フレーム及びボデー自動車の分類と部位名 13 14 シャシの点検・整備 14 15 不具合現象と点検・調整方法 16 学年末試験 16 学年末試験 16 数科書を中心に BIG PAD を使用し、講義形式で行う。基本的には前回の復習 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	
11 ブレーキ装置	
12 フート・ブレーキ装置の点検と調整及び整備 12 13 フレーム及びボデー自動車の分類と部位名 13 14 シャシの点検・整備 14 15 不具合現象と点検・調整方法 15 16 学年末試験 16	
13 フレーム及びボデー自動車の分類と部位名 13 14 シャシの点検・整備 14 15 不具合現象と点検・調整方法 15 16 学年末試験 16 学年末試験 16 数科書を中心に BIG PAD を使用し、講義形式で行う。基本的には前回の復習 でまり 本時の目標 及び本時のまとめへと展開する。状況に応じ練習問題や調ントを取り入れ、より理解を深めるよう努める。 自動車シャシの各項目における分解・占給・組付け及び故障探求の方法につ	
14 シャシの点検・整備 14 15 不具合現象と点検・調整方法 15 16 学年末試験 16 授業方法 (授業の進め方) 教科書を中心に BIG PAD を使用し、講義形式で行う。基本的には前回の復習 じまり 本時の目標 及び本時のまとめへと展開する。状況に応じ練習問題や講 ントを取り入れ、より理解を深めるよう努める。 自動車シャシの各項目における分解・占給・組付け及び故障探求の方法につ	
15	
16 学年末試験 16 教科書を中心に BIG PAD を使用し、講義形式で行う。基本的には前回の復習授業方法 (授業の進め方) な時の目標 及び本時のまとめへと展開する。状況に応じ練習問題や講 ントを取り入れ、より理解を深めるよう努める。	
授業方法 (授業の進め方) 教科書を中心に BIG PAD を使用し、講義形式で行う。基本的には前回の復習 じまり 本時の目標 及び本時のまとめへと展開する。状況に応じ練習問題や課 ントを取り入れ、より理解を深めるよう努める。	
授業方法 (授業の進め方) じまり 本時の目標 及び本時のまとめへと展開する。状況に応じ練習問題や課 ントを取り入れ、より理解を深めるよう努める。	
自動車シャシの各項目における分解・点給・組付け及びお暗探求の方法につ	
到達目標 三級自動車整備士レベルを到達目標とする。	いて
成績評価の 中間・期末考査において テスト:80% 出席率:10% 授業態度:10%以上 方法と基準 を合計し、100点法で算出のうえ 60点以上を認定とする。	 3 項目
授業時間以外に ・自宅学習により当該科目の予習・復習を心掛ける。 ・課題やレポート等の提出は提出期日を厳守する。	
履修に当たって の留意点 授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上 整理や言葉遣い、積極的に取 姿勢など平素の行動を評価するものである。 また、出席率は一種養成施設指定 しての基準を満たす必要がある。	

						70(1)()(1 1-	Tud 1411.22 40), C / C	
科目名	自動車	整備関連(電装)	英文名		Automotive Engineering (Electrical Components)					
担当者		永岡 淳	実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目	・講義	
開講期	後期	前期: 時間(回数	女: 回)	後期:21	時間(授業時数	32 時間			
教材 教具	三級自動車整備士(総合)<日本自動車整備振興会>									
担当者 の実務 経験	自動車ディーラーにて自動車整備									

【学修内容】科目の狙い(目的)

自動車電装品の各項目における分解・点検・組付け及び測定方法など具体的に説明し、良否の判 定さらに整備の方法について、正しく理解する。

	【授業計画】	コマシラバス(前 期)		コマシラバス(後 期)							
1		_ () / / ((iii) // / / / / / / / / / / / / / / / / /	1	バッテリ 液量・比重・容量 取り扱い上の注意など							
1			1								
2			2	ースタ・ケーブルの接続方法)							
3			3	始動装置 車上点検及び良否判定							
4			4	" 脱着方法及び分解組付け							
5			5	充電装置 車上点検及び良否判定							
6			6	" 脱着方法及び分解組付け							
7			7	点火装置 イグニション・コイルの点検							
8			8	後期中間試験							
9			9	点火装置 スパーク・プラグの点検							
10			10	スパーク・プラグの焼け具合、ギャップ							
11			11	予熱装置 グロープラグの点検							
12			12	灯火装置 ライト・スイッチ 各種メータの点検							
13			13	計器類の整備 スピードメータ、タコメータ、各ゲー							
15			10	ジ類							
14			14								
15			15	ホーン、ワイパ、ウインドシールド・ウォッシャの整							
				備							
16			16	学年末試験							
	授業方法		を使用し、講義形式で行う。基本的には前回の復習か本時のまとめへと展開する。また練習問題や課題プリ								
(授	業の進め方)	┃ らはしまり 本時の目標 及び4 ┃ントを取り入れ、より理解を深									
		- 1 C.Dr. > 1 M. o. o. > 1 E.J. C.D.	•-> •	3,77,77							
	到達目標			点検・組付け及び故障探求の方法について、三							
		級自動車整備士レベルを到達目	標と	する。							
-		カ朗・期 ま 孝本において テ	フト	: 80% 出席率: 10% 授業態度: 10%以上3項							
	X頼評価の 5法と基準	目を合計し、100点法で算出の									
	ガムと本牛	日を日前し、100 点仏(舞山の	ノん	00 派外上を応定とする。							
授美	美時間以外に	・自宅学習により当該科目の子	習•	復習を心掛ける。							
Ą	公要な学修	・課題やレポート等の提出は提	出期	日を厳守する。							
	60-NA	授業態度点は、授業中の私語や	き居匪	民り、机上 整理や言葉遣い、積極的に取り組む							
	多に当たって の 四			である。 また、出席数は一種養成施設指定校と							
	の留意点	しての基準を満たす必要がある。									
Ь											

科目名	É	自動車整備関連 (故障探究)	英文名		Automotive Engineering (Trouble shooting)							
担当者	小川 栄二		実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目区分	専門科目	・講義			
開講期	前期 前期: 時間(回数: 回)		数: 回)	後期:	2 時間	(回数:	16 回)	授業時数	32 時間			
教材 教具	三級自	三級自動車整備士(総合)<日本自動車整備振興会>										
担当者の実 務経験	自動車	自動車ディーラーにて自動車整備										

	系経験 (/// 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1			
【字		目の狙い(目的)	ĭ	よ、1~甘ではたロ号が・ナーンチャド・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
			<u>ート</u>	など基礎知識を学び、正しく理解する。
ı	【授業計画】	コマシラバス(前 期)		コマシラバス(後 期)
1			1	エンジン点検・整備の概要 3要素について、エンジンオイル、冷却水点検
2			2	各補機ベルト点検、エア・クリーナ点検 フューエル・フィルター、バッテリ点検
3			3	予熱装置点検、バルブ・クリアランス測定・調整 圧縮圧力点検、フューエル・ポンプ点検
4			4	スパーク・プラグ点検、点火時期の点検 排気の状態 CO HC NOx 黒煙測定器
5			5	エンジン始動状態の点検 低速加速状態の点検 充電状態の点検
6			6	電気配線の点検、排出ガス浄化装置の点検
7			7	エキゾースト・パイプ及びマフラの点検
8			8	●中間考査
9			9	シャシ関連点検 クラッチ(切れ、つながり、滑り)、遊び、切れた時の床板とのすき間
10			10	クラッチ液の量及び漏れ、エアの混入 二輪車クラッチ・レバー
11			11	トランスミッションの点検、オイル漏れ及び量 オートマチック・トランスミッション、二輪車
12			12	プロペラ・シャフト、ドライブ・シャフト ユニバーサル・ジョイントの点検
13			13	ディファレンシャルの点検 チェーン、スプロケット及びドライブ・ベルト
14			14	ショックアブソーバの点検、ステアリング装置の点検、フロント・フォークの点検(二輪車)
15			15	タイヤ、ホイールナット (JIS, ISO) ブレーキの点検、引きずり、ブレーキ調整、
16			16	
(授	授業方法 受業の進め方)	の目標 及び本時のまとめへと展開す 解を深めるよう努める。	る。:	を形式で行う。基本的には前回の復習からはじまり 本時状況に応じ練習問題や課題プリントを取り入れ、より理
	到達目標	各種機器の構造取扱いにおける基础 達目標とする。	楚知 韶 二	後や使用方法等について、三級自動車整備士レベルを到
	成績評価の 方法と基準	中間考査・期末考査においてテス し、100 点法で算出のうえ 60 点以上		0% 出席率:10% 授業態度:10%以上3項目を合計 定とする。
授業	き時間以外に必 要な学修	・自宅学習により当該科目の予習・行 ・課題やレポート等の提出は提出期日		
履修	をに当たっての 留意点			机上 整理や言葉遣い、積極的に取り組む姿勢など平素 席数は一種養成施設指定校としての基準を満たす必要が

科目名	自動車整備関連 (電子制御装置)			英文名		Automobile maintenance related (Electrical components)					
担当者		広瀬	繁		実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門知	識・講義
開講期	後期	前期:	時間((回数	(: 回)	後期:2	時間	(回数:1	6回)	授業時数	32 時間
教材 教具	三級目	三級自動車整備士(総合)<岡山自動車整備振興会>									
担当者の 実務経験	自動車	自動車ディーラーにて自動車整備									

【学修内容】科目のねらい(目的)

電子制御装置における、各項目の分解・点検・組付け方法など具体的に説明し、整備の方法につい て、正しく理解することを目的とする。

【授業計画】	コマシラバス (前 期)		コマシラバス (後 期)						
1		1	「ガソリン・エンジン」概要 構造・機能 P.113 1)燃料系統 P.115						
2		2	2)吸気系統 P.115						
3		3	3)点火系統 P.117						
4		4	4)制御系統 P.118						
5		5	整備 1) 吸気系統 P.121						
6		6	2)燃料系統 P.122						
7		7	3)制御系統 P.122						
8		8	電子制御装置「ジーゼル・エンジン(コモンレール式高圧燃料噴射装置)」P.124 概要 P.124						
9		9	構造・機能 P.125 1)サプライ・ポンプ P.125						
10		10	後期中間試験						
11		11	2)コモンレール P.126						
12		12	3) インジェクタ P.127						
13		13	4)センサ P.128						
14		14	整備 P.128 1)整備上の全般的な注意事項						
1.5		15	2)インジェクタ補正値登録						
15		16	学年末試験						
授業方法 (授業の進め 方)	はじまり 本時の目標(狙い) 及	をびえ	、講義形式で行う。基本的には前回の復習から本時のまとめへと展開する。状況に応じ カッチ ち込み、より具体的に説明する。						
到達目標	エンジン又はモータの各構成 整備士レベルを到達目標とする		の名称 及び点検・整備について、三級自動車						
成績評価の 方法と基準	中間・期末考査において テス を合計し、100 点法で算出のうま		:80% 出席率:10% 授業態度:10%以上3項目 0点以上を認定とする。						
授業時間以外 に必要な学修	・自宅学習により当該科目の予 ・課題やレポート等の提出は提								
履修に当たっ ての留意点		\$0.	民り、机上 整理や言葉遣い、積極的に取り組む のである。 また、出席数は一種養成施設指定校						

	が (大大ツ 1 中国 内間は 10 分 こ) 5											
科目名		自動車整備作業	英文名		Automobile maintenance Practical training							
担当者	広瀬 繁 永岡 淳 小林 治行		実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門知詞	哉・講義			
開講期	通期	前期:20時間(回数	: 17.6 回)	後期:	20 時間	(回数:	17.6 回)	授業時数	704 時間			
教材 教具		三級自動車整備士(総合)<岡山自動車整備振興会> 基礎自動車整備作業<岡山自動車整備振興会>										
担当者の 実務経験	自動車	自動車ディーラーにて自動車整備										

【学修内容】科目のねらい(目的)

自動車整備における、各項目の分解・点検・組付け方法など具体的に説明し、故障探求や良否判定及 71、敕借の方法について 正しく理解することを目的とする

び虫	を備の方法に	ついて、正しく理解することを目的	りとっ	する。
【挖	受業計画】	コマシラバス (前 期)		コマシラバス(後 期)
1	て用穴あけ、切断・ げ、荒仕上げ⇒仕_	m) 立て用の穴あけ、けがき線上を切断作業/タップ立作業とタップ立て、やすり・ペーパー等使用し荒仕上上げ、仕上げ 完成品の提出(提出物で評価)	1	緩衝装置ストラット分解組付け 1
2		測定作業(測定機器)、点検作業(テスタ類)、充電作 ジャ)、特殊工具(SST)、昇降作業(各種リフト、検査機	2	ステアリング装置(ラック&ピニオン・ボールナット)分解組付け1
3	置分解組み付け	リン)吸気・潤滑・冷却・燃料・排気・始動・充電・点火装	3	緩衝装置ストラット分解組付け 1
4	エンジン実習(ガソ置分解組み付け	リン)吸気・潤滑・冷却・燃料・排気・始動・充電・点火装	4	ステアリング装置(ラック&ピニオン・ボールナット)分解組付け 1
5	エンジン実習(ガソ 置分解組み付け	リン)吸気・潤滑・冷却・燃料・排気・始動・充電・点火装	5	タイヤ組替 動力伝達装置クラッチ分解組付け 1
6	エンジン実習(ベン	チ・エンジン)ガソリン・ジーゼル分解組み付け	6	電気装置 バッテリ (電気回路点検)
7	エンジン実習(ベン	チ・エンジン)ガソリン・ジーゼル分解組み付け	7	電気装置スタータ・オルタネータ分解組付け
8	エンジン実習(ベン	チ・エンジン)ガソリン・ジーゼル分解組み付け	8	電子制御装置エンジン 1
9	エンジン実習(ベン	チ・エンジン)ガソリン・ジーゼル分解組み付け	9	二輪車整備 エンジン・サスペンション 動力伝達装置・走行装置・電気装置 1
10	エンジン実習(ベン	チ・エンジン)ガソリン・ジーゼル分解組み付け	10	実習車エンジン・足廻り・下廻り・動力伝達装置・電気装置点検整備 2
11	制動装置 ディスク	ブレーキ・ドラムブレーキ等分解・組付け	11	実習車エンジン・足廻り・下廻り・動力伝達装置・電気装置点検整備 3
12	動力伝達装置トラ	シスミッション分解組付け	12	自動車定期点検整備日常点検・6か月点検概要説明
13	動力伝達装置トラ	シンスミッション分解組付け	13	自動車定期点検整備 12 か月点検整備、概要説明
14	動力伝達装置デス	アレンシャル・ドライブシャフト分解組付け	14	12か月点検整備(スパークプラグ・補機ベルト脱着)
15	日常点検、法定点	検	15	12か月点検整備(バンパー・ヘッドライト・テール脱着)
16	日常点検、法定点		16	12か月点検整備(ブレーキパッド・ブレーキシュー脱着
17 18	エンジン実習総括 前期まとめ	前期末実習実技試験	17 18	学年末実習実技試験 (エンジン・シャシ・電装) 後期まとめ
10	111791 & C = 7	授業始まりは全体でミーティングを行		その後2組に分かれて各々実施する。グループ学習を
	授業方法			持巡回指導を行う。ここでは単体作業を中心に各構成部
(授	業の進め方)	品の名称や構造・機能及び作動をより		
	7.1.4 P. 17	各セクションにおいて、単元終了時に	こ小ラ	テストや実技試験を行い、到達度 70%以上を目指す。さ
	到達目標	らに、実技において三級自動車整備士は	ンベル	を到達目標とする。
	戈績評価の	前・後期 1 回ずつの期末考査にて 気	実技記	、 験:70%(※二輪車整備を含む)出席率:15% 実習
J	方法と基準	態度:15%、以上3項目を合計し100	点法	で算出のうえ 60 点以上を認定とする。
	業時間以外に 公要な学修	課題やレポート等の提出は提出期日を雇	厳守す	-3.
	冬に当たって の留意点	自動車(実習車)や工具を大切に扱うましての基準を満たしていることが必要で		か作を学ぶ。出席時数において、一種養成施設指定校と

_								71. 4	, _ , _		
科目名		一般教養	英文名	General	educat	cion			2-1		
担当者		中﨑 太	実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	一般科目	演習		
開講期	前期	前期:1時間(回数	(:16回)	後期: 1	時間	(回数:	16 回)	授業時数	32 時間		
教材 教具											
	【学修内容】科目の狙い(目的)										
1 社会	会人として	の心構えとして職場	での68に	こついて学習	習する。	、また職	場でのコ	ミュニケー	ション		

及	社会人としての心構えとして職場での6Sについて学習する。また職場でのコミュニケーション 及び接客業務について学習する。さらに資格対策の一環として後期は計算問題と法令問題に取り組										
	J.		214								
	【授業計画】	コマシラバス(前 期)		コマシラバス(後 期)							
1	新入社員の仕事	まについて	1	取り次ぎの仕方							
2	仕事に取り組む	ያ心構え、身だしなみ	2	面会を断る場合							
3	自動車業界の動	向について	3	案内の要領 エレベータ、応接室の席次							
4	指示の受け方・	報告の仕方	4	お茶の出し方 見送り							
5	職場の人間関係	Ŕ	5	電話応対 電話の特性							
6	基本動作 立つ)姿勢 お辞儀	6	電話の受け方 伝言メモの作成							
7	椅子の立ち座り	歩き方 表情	7	電話による苦情対応							
8	話の仕方 話の	聞き方	8	電話のかけ方 携帯電話、Eメール							
9	あいさつ&言葉	きづかい	9	訪問のマナー 交通手段に関する知識							
10				受付、応接室でのマナー、名刺交換							
11	接遇とは 接退	畳の目的	11	資格対策 (スケジュール及び進め方) 両免申請につい て							
12	受付応対1		12	資格対策 (計算問題)							
13	受付応対 2		13	資格対策 (計算問題)							
14	名刺の出し方、	取り扱い	14	資格対策(法令:車両法)							
15	ロールプレイン	イ グ	15	資格対策 (法令:保安基準)							
16	まとめ 単元約	冬了テスト	16	まとめ 単元終了テスト							
	授業方法 業の進め方)		•	受遇についてはロールプレイング等を取入れ いては、学科授業の補助として 計算問題と法令							
	到達目標	٤.		としての心構え、マナーを一通り説明できるこ 東習問題の正答率 70%以上を到達目標とする。							
	成績評価の 方法と基準		点法	いて テスト:80% 出席率:10% 授業態度: で算出のうえ 60 点以上を認定とする。なお、							
	業時間以外に 必要な学修	資格対策において、正答率が 出若しくは放課後自主学習を行		く低い場合は、状況に応じ 課題プリントの提 場合がある。							
履個	多に当たって の留意点	授業態度点は欠席、授業中の 取り組む積極的な姿勢など 平		5や居眠り、机上整理や言葉遣い、授業に 行動を評価する。							

							7 1 1 7	, , , ,	- , -		
科目名	É	目動車整備作業	英文名				naintenance training		2-2		
担当者	中﨑	太・田中 滋林	実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科	目・実習		
開講期	通年 前期:20時間(回数:16.5回			後期:20時間(回数:16.5回) 授					660 時間		
教材 教具	二級ジ	一									
担当者 の実務 経験		中﨑 太 : 自動車ディーラーにて自動車整備									

安全作業を基本に実車等を使用し実践的な作業を行うことで即戦力・応用力の育成を目指す。作業手 順やその方法など正しく理解し最も効率の良い方法を具体的に学ぶ。さらに検査実習では検査機器による 検査や良否判定及び指定整備記録簿の書き方など、より具体的に学ぶ。

技業計画	伪	(検査や良否判定及び指定整備記録簿の書き方など、より具体的に字ふ。 									
2		【授業計画】	コマシラバス(前 期)		コマシラバス(後 期)						
3	1	走行装置・A/T、	エア油圧ブレーキ・制動倍力装置 1	1	エンジン故障探求・ハイブリッド、シャシ・電装品故障探求 1						
4 走行要度・A/T、エア油圧プレーキ・制動給力装置も 5	2	走行装置・A/T、	エア油圧ブレーキ・制動倍力装置 2	2	エンジン故障探求・ハイブリッド、シャシ・電装品故障探求 2						
 左行装置・A/T、エア油圧ブレーキ・制動倍力装置 5 左行装置・A/T、エア油圧ブレーキ・制動倍力装置 6 左行装置・A/T、エア油圧ブレーキ・制動倍力装置 7 左行装置・A/T、エア油圧ブレーキ・制動倍力装置 7 左行装置・A/T、エア油圧ブレーキ・制動倍力装置 8 左行装置・A/T、エア油圧ブレーキ・制動倍力装置 8 左行装置・A/T、エア油圧ブレーキ・制動倍力装置 9 合同実置 学年末実習実技試験 2 担き装置、操舵装置、電装品、内装開係 1 粉架装置、操舵装置、電装品、内装開係 2 11 粉架装置、機蛇装置、電装品、内装開係 3 粉架装置、機蛇装置、電装品、内装開係 3 粉架装置、機蛇装置、電装品、内装開係 3 粉架装置、機蛇装置、電装品、内装開係 5 村 整架装置、機蛇装置、電装品、内装開係 5 長屋、 大力・対グーション) 4 新架装置、機蛇装置、電装品、内装開係 5 長屋、 大力・装砂管探・電子制御羽装置故障探充 1 新架装置、機蛇装置、電装品、内装開係 5 長屋、 大力・大ビグーション) 4 大力・放降探末、電子制御羽装置故障探充 1 金装故障探元、電子制御羽装置故障探充 2 電装故障探元、電子制御羽装置故障探充 3 台両装置 学年末実置実技試験 7 授業方法(授業の進め方) 投業方法(授業の進め方) 大力・大型・ションにおいて、単元終了時に小テストや実技試験を行い、到達度70%以上を目標とする。なお、現車作業において二級自動車整備エレベルを到達目標としている。 本セクションにおいて、単元終了時に小テストや実技試験を行い、到達度70%以上を目標とする。なお、現車作業において二級自動車整備エレベルを到達目標としている。 東石に試験を行い、中間・期末考査に反映させ、実習実技試験:70% 出席率:15% 実習態度:15%以上3項目を合計し100点法で算出のうえ60点以上を認定とする。 投業時間以外に必要な学修 履修に当たっては出席時数において、一種養成施設指定校としての基準を満たし 履修に当たっては出席時数において、一種養成施設指定校としての基準を満たし 	3	走行装置・A/T、	エア油圧ブレーキ・制動倍力装置3	3	エンジン故障探求・ハイブリッド、シャシ・電装品故障探求 3						
6	4	走行装置・A/T、	エア油圧ブレーキ・制動倍力装置 4	4	エンジン故障探求・ハイブリッド、シャシ・電装品故障探求 4						
7	5	走行装置・A/T、	エア油圧ブレーキ・制動倍力装置 5	5	エンジン故障探求・ハイブリッド、シャシ・電装品故障探求 5						
8	6	走行装置・A/T、	エア油圧ブレーキ・制動倍力装置 6	6	エンジン故障探求・ハイブリッド、シャシ・電装品故障探求 6						
9	7	走行装置・A/T、	エア油圧ブレーキ・制動倍力装置 7	7	エンジン故障探求・ハイブリッド、シャシ・電装品故障探求7						
10	8	B 走行装置・A/T、エア油圧ブレーキ・制動倍力装置8			エンジン故障探求・ハイブリッド、シャシ・電装品故障探求 8						
11	9	走行装置・A/T、	エア油圧ブレーキ・制動倍力装置 9	9	合同実習 学年末実習実技試験						
12	10	懸架装置、操舵装置	置、電装品、内装関係 1	10	シャシ故障探求 その他の電装品 (ETC カー・ナビゲーション) 1						
13	11	懸架装置、操舵装置	置、電装品、内装関係 2	11	シャシ故障探求 その他の電装品 (ETC カー・ナビゲーション) 2						
14	12	懸架装置、操舵装置	置、電装品、内装関係 3	12	シャシ故障探求 その他の電装品 (ETC カー・ナビゲーション) 3						
15 懸架装置、操舵装置、電装品、内装関係6 15 電装故障探究、電子制御羽装置故障探究 2 16 懸架装置、操舵装置、電装品、内装関係 7 16 電装故障探究、電子制御羽装置故障探究 3 17 合同実習 学年末実習実技試験 17 合同実習 学年末実習実技試験 授業方法 (授業の進め方) 授業始まりは全体ミーティングを行い、その後 2 組に分かれて実施する。現車作業を中心にグループ形式にて各種脱着作業から点検・整備及び故障探求の方法など、より具体的に学ぶ。 各セクションにおいて、単元終了時に小テストや実技試験を行い、到達度 70%以上を目標とする。なお、現車作業において二級自動車整備士レベルを到達目標としている。 単元毎に試験を行い、中間・期末考査に反映させ、実習実技試験:70% 出席率: 15% 実習態度:15%以上3項目を合計し100点法で算出のうえ60点以上を認定とする。 課題やレポート等の提出は提出期日を厳守する。 履修に当たっては出席時数において、一種養成施設指定校としての基準を満たし 履修に当たって	13	懸架装置、操舵装置	置、電装品、内装関係 4	13	シャシ故障探求 その他の電装品 (ETC カー・ナビゲーション) 4						
16	14 懸架装置、操舵装置、電装品、内装関係 5				電装故障探究、電子制御羽装置故障探究 1						
17 無架装置、操舵装置、電装品、内装関係8 前期末実習実技試験 17 合同実習 学年末実習実技試験 授業方法 授業始まりは全体ミーティングを行い、その後2組に分かれて実施する。現車作業を中心にグループ形式にて各種脱着作業から点検・整備及び故障探求の方法など、より具体的に学ぶ。 各セクションにおいて、単元終了時に小テストや実技試験を行い、到達度70%以上を目標とする。なお、現車作業において二級自動車整備士レベルを到達目標としている。 単元毎に試験を行い、中間・期末考査に反映させ、実習実技試験:70% 出席率: 15% 実習態度:15%以上3項目を合計し100点法で算出のうえ60点以上を認定とする。 課題やレポート等の提出は提出期日を厳守する。 課題やレポート等の提出は提出期日を厳守する。 履修に当たっては出席時数において、一種養成施設指定校としての基準を満たし	15 懸架装置、操舵装置、電装品、内装関係 6				電装故障探究、電子制御羽装置故障探究 2						
授業方法 (授業の進め方) 授業始まりは全体ミーティングを行い、その後2組に分かれて実施する。現車作業を中心にグループ形式にて各種脱着作業から点検・整備及び故障探求の方法など、より具体的に学ぶ。	16	懸架装置、操舵装置	置、電装品、内装関係 7	16	電装故障探究、電子制御羽装置故障探究 3						
授業方法 (授業の進め方) 業を中心にグループ形式にて各種脱着作業から点検・整備及び故障探求の方法など、より具体的に学ぶ。	17	懸架装置、操舵装置	置、電装品、内装関係8 前期末実習実技試験	17	合同実習 学年末実習実技試験						
(授業の進め方) 業を中心にグループ形式にて各種脱看作業から点検・整備及び故障採求の方法など、より具体的に学ぶ。			授業始まりは全体ミーティング	げを行	い、その後2組に分かれて実施する。現車作						
日本の と、より具体的に字ぶ。			業を中心にグループ形式にて各種	重脱着	作業から点検・整備及び故障探求の方法な						
到達目標 上を目標とする。なお、現車作業において二級自動車整備士レベルを到達目標としている。 成績評価の 方法と基準 単元毎に試験を行い、中間・期末考査に反映させ、実習実技試験:70% 出席率: 15% 実習態度:15%以上3項目を合計し100点法で算出のうえ60点以上を認定とする。 授業時間以外に 必要な学修 課題やレポート等の提出は提出期日を厳守する。 履修に当たって 履修に当たっては出席時数において、一種養成施設指定校としての基準を満たし	(授	業の進め力)	ど、より具体的に学ぶ。								
でいる。			各セクションにおいて、単元約	冬了時	に小テストや実技試験を行い、到達度 70%以						
成績評価の 方法と基準 単元毎に試験を行い、中間・期末考査に反映させ、実習実技試験:70% 出席率: 15% 実習態度:15%以上3項目を合計し100点法で算出のうえ60点以上を認定と する。 授業時間以外に 必要な学修 課題やレポート等の提出は提出期日を厳守する。 履修に当たって 履修に当たっては出席時数において、一種養成施設指定校としての基準を満たし		到達目標	│ │上を目標とする。なお、現車作業	美にお	いて二級自動車整備士レベルを到達目標とし						
成績評価の 方法と基準 15% 実習態度:15%以上3項目を合計し100点法で算出のうえ60点以上を認定と する。 授業時間以外に 必要な学修 課題やレポート等の提出は提出期日を厳守する。 履修に当たって 履修に当たっては出席時数において、一種養成施設指定校としての基準を満たし			ている。								
方法と基準 15% 実習態度: 15%以上3項目を合計し100点法で算出のうえ60点以上を認定とする。		D. /	単元毎に試験を行い、中間・期	明末考	査に反映させ、実習実技試験:70% 出席率:						
する。 授業時間以外に			15% 実習態度:15%以上3項目	を合言	計し 100 点法で算出のうえ 60 点以上を認定と						
選題やレポート等の提出は提出期日を厳守する。 必要な学修 履修に当たって):	7法と基準	する。								
必要な字修 履修に当たって 履修に当たっては出席時数において、一種養成施設指定校としての基準を満たし	授業	美時間以外に		[1 4 45 →	3. Made 1. w						
	业	公要な学修	課題やレホート等の提出は提出 	11期日	を厳寸する。						
					Service National Health Community of the						
の留怠点 ていることが必要である。 		•		さいて	、一種養成施設指定校としての基準を満たし						
		の留意点	ていることが必要である。								

科目名		自動車検査作業	英文名		tomobile ractical		2-3				
担当者	中峰	寄 太・田中 滋機	実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目区分	専門科目	・実習		
開講期	後期 前期: 時間(回数: 回)				後期:20時間(回数:3回) 授業時数						
教材 教具		検査用機械器具の構造。 本<公論出版>	と取扱<日本	自動車	幾械工具的	協会>					
担当者 の実務 経験		中﨑 太 : 自動車ディーラーにて自動車整備									

定期点検及び車検整備について、実践的に学習する。また検査機器を使用し検査を行うことで当該車 両が保安基準に適合するかの判断ができ、さらに点検記録簿や指定整備記録簿等の書き方も含め総合的に

学	学習し即戦力を目指す。											
	【授業計画】	コマシラバス(前	期)		コマシラバス (後 期)							
1				1	定期点検・車検整備及び検査機器による検査 1							
2				2	定期点検・車検整備及び検査機器による検査2							
3				3	検査機器による検査 科目終了テスト							
4												
5												
6												
7												
8												
9												
10												
11												
12												
13												
14												
15												
	授業方法 業の進め方)	業を中心にグループ形	が式にて各	車両の	デい、その後2組に分かれて実施する。現車作 の定期点検や車検整備を実施し検査機器による の書き方等について指導する。							
	到達目標				を行い、到達度 70%以上を目標とする。な 計士レベルを到達目標としている。							
	対 積評価の が法と基準				:70% 出席率:15% 実習態度:15% 以上3 0点以上を認定とする。							
,	業時間以外に 必要な学修 課題やレポート等の提出は提出期日を厳守する。											
履修に当たって 履修に当たっては出席時数において、一種養成施設指定校としての基準 の留意点 ていることが必要である。												

	が10人で11年間の間は10分です。											
科目名	自動車工学 構造性能 (ガソリン)		英文名		Automotive Engineering Structure Performance							
担当者		小川 栄二	実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目	目・講義			
開講期	通年	前期:2時間(回数	(:16回)	後期:	時間	(回数:	回)	授業時数	32 時間			
教材 教具	二級ガソ	リン自動車 エンジン	編<日本自	動車整備扱	長興会選	重合会>						
担当者 の実務 経験	自動車ディーラーにて自動車整備											
▼ N/ /← I		~ VH / H ./.\										

エンジンの各構成部品の名称をはじめ構造及び性能について、正しく理解する。

【授業計画】 コマシラバス(前 期)	コマシラバス(後 期)				
1 燃焼方式の説明	1				
2 バルブ・タイミングの説明	2				
3 ガソリン・エンジンの性能の説明	3				
4 排ガス対策、ノッキングの説明	4				
5 エンジン本体 エンジン本体の説明	5				
6 エンジン本体 バルブ機構の説明	6				
7 エンジン本体 可変バルブ・タイミング機構の説明	7				
8 前期中間試験	8				
9 潤滑装置 オイルの循環・冷却、油圧の制御の説明	9				
10 冷却装置 構造、・機能、電動ファンの説明	10				
11 燃料装置 構造・機能、電子制御式 LPG 燃料装置の説明	11				
12 電子制御装置 燃料噴射制御の説明	12				
13 電子制御装置 燃料噴射制御の説明	13				
14 吸排気装置 過給機、可変吸気装置の説明	14				
15 電気装置 点火装置の説明	15				
16 前期末試験	16				
授業方法 (授業の進め方) 教科書を中心に BIG PAD を使用し、講義形式で行う。基本的には前回の じまり 本時の(狙い)及び本時のまとめへと展開する。状況に応じ カッ や各種サンプルなどを持ち込み、より具体的に説明する。					
到達目標 二級自動車整備士の技能登録記	式験 合格レベルを到達目標とする。				
成績評価の 中間・期末考査において テス 方法と基準 合計し、100 点法で算出のうえ (ト:80% 出席率:10%授業態度:10%以上3項目を 60点以上を認定とする。				
授業時間以外に ・自宅学習により当該科目の予 ・課題やレポート等の提出は提出					
【 復修に 当たつて 】	や居眠り、机上 整理や言葉遣い、積極的に取り組む ものである。 また、出席数は一種養成施設指定校と				

☆!又未の1 年世時間はも0 ガミリ											
科目名		車工学 構造性能 (ジーゼル)	英文名			Engineer Performan	_		2-5		
担当者		小川 栄二	実務経験 の有無	有	選択必修	必修	科目 区分	専門科目	・講義		
開講期	通年	前期:2時間(回数	女:16回)	後期:	時間	(回数:	回)	授業時数	32 時間		
教材 教具	二級ジー	ゼル自動車 エンジン	編<日本自	動車整備扱	長興会選	重合会>					
担当者 の実務 経験	自動車ディーラーにて自動車整備										
7 24 1/2-1	→ #→ T 1 T .	ω×π , (□ 44)							ŀ		

エンジンの各構成部品の名称をはじめ構造及び性能について、正しく理解する。

	【授業計画】	コマシラバス(前 期)	コマシラバス(後 期)
1	燃焼方式の説明		
2	バルブ・タイミ	ングの説明	
3	ジーゼル・エン	ジンの性能の説明	
4	排ガス対策、ジー	ーゼル・ノックの説明	
5	酸化触媒、DPF等	等の説明	
6	コモンレール式	氰圧燃料噴射システムの説明	
7	エンジン本体	エンジン本体の説明	
8	エンジン本体ま	とめ 前期中間試験	
9	潤滑装置 オー	イルの循環・冷却、油圧の制御の説明	
10	冷却装置 構造 の説明	告、·機能、ファン・クラッチ、電動ファン	
11	燃料装置 列型	型インジェクション・ポンプの説明	
12	燃料装置 分配	配型インジェクション・ポンプの説明	
13		ジェクション・ポンプ 電子制御式イン	
	ジェクション・オ	ドンプの説明 ジェクション・ポンプ 電子制御式イン	
14	ジェクション・オ		
15	吸排気装置	ターボ・チャージャ、慣性過給装置の説明	
16	まとめ 前期末記	試験	
	授業方法 業の進め方)		目し、講義形式で行う。基本的には前回の復習からは のまとめへと展開する。状況に応じ カット・モデル より具体的に説明する。
•	到達目標	二級自動車整備士の技能登録記	式験 合格レベルを到達目標とする。
	找績評価の 万法と基準	中間・期末考査において テス を合計し、100 点法で算出のうえ	ト:80% 出席率:10% 授業態度:10%以上3項目 60点以上を認定とする。
	美時間以外に 必要な学修	・自宅学習により当該科目の予律・課題やレポート等の提出は提出	
	多に当たって の留意点		や居眠り、机上 整理や言葉遣い、積極的に取り組む らのである。 また、出席数は一種養成施設指定校と

【令	和 7	7年度シ	ラバス】	引山科学技術	 事門	学校				動車工学科 位時間は 48	
科目	1名	自動車	車工学 構造性能 (シャシ)	英文名				Engineer erforman	_		2-6
担当	当者		小川 栄二	実務経験 の有無	7	有	選択必修	必修	科目 区分	専門科目	・講義
開請		前期	前期:4 時間(回数	: 16 回)	後期	月:	時間	(回数:	回)	授業時数	64 時間
教教		二級自動	車シャシ<日本自動車	重整備振興 会	<u></u>						
の争	担当者 の実務 自動車ディーラーにて自動車整備 経験										
	自動	車シャシに	D狙い(目的) こおける各構成部品の デルや各種サンプル	– .						理解する。	状況に
	【授	業計画】	コマシラバス(前	期)			コ	マシラバ	ス(後	期)	
1		自動車の発	_		1						
2 3				2 3							
$\frac{3}{4}$					4						
5		トマティック			5						
6	作動	制限刑ディフ	マレンジャル		6						

3	走行性能 関連	公式	3				
4	動力伝達装置	MT クラッチ	4				
5	オートマティッ	ク TM	5				
6	作動制限型ディ	ファレンシャル	6				
7	インタ・アクス	ル・ディファレンシャル	7				
8	動力伝達装置ま	とめ 前期中間試験	8				
9	アクスル及びサ	スペンション	9				
10	エア・スプリング						
11	ステアリング装	置	11				
12	旋回性能、コー	ナリング・フォース	12				
13	ラック・ピニオン型電子制御式						
14	電動式パワー・ステアリング						
15	タイヤ及びホイ	ール・アライメント	15				
16	まとめ 前期末	試験	16				
	授業方法 業の進め方)			講義形式で行う。前回の復習からはじまり 本時る。練習問題等の提出により理解を深める。			
	到達目標	自動車シャシにおける各構成音 士レベルへの到達を目標とする。	『品の	名称 及び構造・性能について、二級自動車整備			
	戈績評価の 5法と基準	中間・期末考査において テス 合計し、100 点法で算出のうえ 6		80% 出席率:10% 授業態度:10%以上3項目を 以上を認定とする。			
	業時間以外に 必要な学修	・自宅学習により当該科目の予習 ・課題やレポート等の提出は提出					
	授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上 整理や言葉遣い、積極的に取り組む 姿勢など平素の行動を評価するものである。 また、出席数は一種養成施設指定校と しての基準を満たす必要がある。						

科目名	自動車工	学 電気・電子理論	英文名		Automotive Engineering (Electricity & Electronic Theory)					
担当者		永岡 淳	実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目	・講義	
開講期	前期 前期:2時間(回数:16回)			後期:	時間	(回数:	回)	授業時数	32 時間	
教材 教具		リン自動車 エンジン 車シャシ<日本自動車				重合会>				
担当者 の実務 経験	自動車デ	自動車ディーラーにて自動車整備								

1 学年次の学習内容をベースに、電気の基礎から自動車の各種電気装置について、より具体的に学習す る。さらに新機構も含め電子制御装置や各構成部品の名称及び構造や性能・作動を正しく理解する。

-										
	【授業計画】	コマシラバス(前 期)		コマシラバス(後期)						
1	復習 電子 静電	意気 電流 電圧など	1							
2	半導体の種類及び	び働き	2							
3	バッテリの充放	電 電解液の温度と比重の関係など	3							
4	始動装置(スタ	ータ) の構造や作動及び出力特性	4							
5	減速機構及び緩循	衝装置など	5							
6	充電装置(オル	タネータ) の構造や作動	6							
7	充電装置 三相交	ご流及び整流など	7							
8	充電装置まとめ	前期中間試験	8							
9	充電装置の回路	図の見方	9							
10	エンジン点火装	置 高電圧発生の原理及びスパーク・プラグ	10							
11	電子制御装置の	概要(システム回路)	11							
12	アクチュエータ	及び ECU による制御	12							
13	計器及び各種警	報装置の作動	13							
14	空調システム(エア・コンデショナ) について	14							
15	安全装置 SRSコ	ェア・バッグ シート・ベルトなど	15							
16	空調及び安全装置	置まとめ 前期末試験	16							
	授業方法 業の進め方)		のま	講義形式で行う。基本的には前回の復習からは とめへと展開する。また練習問題や課題プリン う努める。						
	到達目標	二級自動車整備士の技能登録記	式験	合格レベルを到達目標とする。						
	戈績評価の 5法と基準	中間・期末考査において テス を合計し 100 点法で算出し、60 /		80% 出席率:10% 授業態度:10%以上3項目 上を認定とする。						
授業時間以外に ・自宅学習により当該科目の予習 ・課題やレポート等の提出は提出										
	多に当たって の留意点			民り、机上 整理や言葉遣い、積極的に取り組む である。 また、出席数は一種養成施設指定校と						

担当者 小川 宋二 の有無 月 必修 必修 区分 専門科目・講義 開講期 後期 前期: 時間(回数: 回) 後期:2時間(回数:16回) 授業時数 32時間	科目名			英文名	Auto					
一	担当者		小川 栄二		有		必修		専門科目	・講義
教材 「毎ガソリン自動車 エンジン領ノロ木自動車敷借に関合連合会へ	開講期	後期 前期: 時間(回数: 回) 後期:2時間(回数						6回)	授業時数	32 時間
教具 一般 ガブザブ 自動車 エブジブ 編 く 日本 自動車 歪 備 振 典 云 連		二級ガソリン自動車 エンジン編<日本自動車整備振興会連合会>								
担当者 の実務 自動車ディーラーにて自動車整備 経験	の実務	自動車ディーラーにて自動車整備								

エンジン整備の各項目における分解・点検・組付け方法や故障探求の方法など、より具体的に説明 し良・否の判定 さらに整備の方法について、正しく理解する。

【授業計画】	コマシラバス(前 期)	コマシラバス(後 期)								
1		1	エンジンの点検・整備 基本点検の説明							
2		2	エンジンの三要素							
3		3	バルブ機構 点検・整備							
4		4	点火装置 点検・整備							
5		5 冷却装置・潤滑装置 点検・整備								
6		6 吸排気装置点検・整備								
7		7	燃料装置点検・整備							
8		8	後期中間試験							
9		9 故障原因探求 故障診断の進め方の説明								
10		10	エンジンの点検・整備 自己診断システムの点検 1							
11		スキャンツール OBD の概要								
12		12	エンジンの点検・整備 自己診断システムの点検 2							
13		13	ダイアグノーシスコード データモニタ							
14		14	アクティブテスト 作業サポート							
15		15 故障原因探求フローチャート								
16		16	学年末試験							
授業方法 (授業の進め方)		用し、講義形式で行う。基本的には前回の復習からは 所のまとめへと展開する。また練習問題や課題プリン るよう努める。								
到達目標	二級自動車整備士の技能登録試験	食 合	格レベルへの到達を目標とする。							
成績評価の 方法と基準	中間・期末考査において テス を合計し、100 点法で算出のうえ	•	80% 出席率:10% 授業態度:10%以上3項目 点以上を認定とする。							
授業時間以外に 必要な学修										
履修に当たって の留意点			民り、机上 整理や言葉遣い、積極的に取り組む である。 また、出席数は一種養成施設指定校と							

科目名 自動車整備 エンジン・故障 探求 (ジーゼル) 英文名 Automobile Maintenance (Diesel) 2-9 担当者 小川 栄二 実務経験 の有無 の有無 の有無 の有無 の有無 必修 必修 区分 科目 区分 専門科目・講義 開講期 後期 前期: 時間(回数:回) 後期:2時間(回数:16回) 授業時数 32時間 教材 教具 二級ジーゼル自動車 エンジン編<日本自動車整備振興会連合会> 担当者 の実務 経験 自動車ディーラーにて自動車整備		Attack of the state of the stat										
担当者 小川 宋一 の有無 月 必修 区分 専門科目・講義 開講期 後期 前期: 時間(回数:回) 後期:2時間(回数:16回) 授業時数 32時間 教材 教具 二級ジーゼル自動車 エンジン編<日本自動車整備振興会連合会> 担当者 の実務 自動車ディーラーにて自動車整備	科目名			英文名	Auto			nce		2-9		
教材 教具 二級ジーゼル自動車 エンジン編<日本自動車整備振興会連合会> 担当者 の実務 自動車ディーラーにて自動車整備	担当者		小川 栄二		有		必修		専門科目	・講義		
教具 一般シーセル自動車 エンシン編《日本自動車整備振興会連合会》 担当者 の実務 自動車ディーラーにて自動車整備	開講期	後期 前期: 時間(回数:回) 後期:2時間(回数:16回) 授業時数								32 時間		
の実務 自動車ディーラーにて自動車整備		二級ジーゼル自動車 エンジン編<日本自動車整備振興会連合会>										
	の実務	自動車ディーラーにて自動車整備										

エンジン整備の各項目における分解・点検・組付け方法や故障探求の方法など、より具体的に説明 し良否の判定 さらに整備の方法について、正しく理解する。

【授業計画】	コマシラバス(前 期)		コマシラバス(後 期)					
1		1	エンジンの点検・整備 基本点検の説明					
2		2	エンジン本体の点検・整備					
3		3	バルブ機構 点検・整備					
4		4	燃料噴射装置 点検・整備					
5		5	冷却装置・潤滑装置 点検・整備					
6		6	吸排気装置 点検・整備					
7		7	予熱装置 点検・整備					
8		8	後期中間試験					
9		9	故障原因探求 故障診断の進め方の説明					
10		10	エンジンの点検・整備 自己診断システムの点検 1					
11	スキャンツール OBD の概要							
12		エンジンの点検・整備 自己診断システムの点検 2						
13		13	ダイアグノーシスコード データモニタ					
14		14	アクティブテスト 作業サポート					
15		15	故障原因探求フローチャート					
16		16	学年末試験					
授業方法 (授業の進め方)	じまり 本時の(狙い)及び本時	のま	講義形式で行う。基本的には前回の復習からは とめへと展開する。)入れ、より理解を深めるよう努める。					
到達目標	二級自動車整備士の技能登録記	式験	合格レベルへの到達を目標とする。					
成績評価の 方法と基準	中間・期末考査において テス を合計し、100 点法で算出のうえ	•	80% 出席率:10% 授業態度:10%以上3項目 点以上を認定とする。					
授業時間以外に 必要な学修								
履修に当たって の留意点								

自動車	自動車整備 シャシ・故障 探求 英文名			Automobile Maintenance (Chassis)						
	小川 栄二	実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目	・講義		
後期 前期: 時間(回数: 回) 後期:2時間(回数:16回) 授業時数 32時間										
二級自動車シャシ<日本自動車整備振興会>										
自動車ディーラーにて自動車整備										
	後期二級自動	小川 栄二 後期 前期: 時間(回数 二級自動車シャシ<日本自動車	探求 英文名 小川 栄二 実務経験の有無 後期 前期: 時間(回数: 回) 二級自動車シャシ<日本自動車整備振興会	探求 英文名 小川 栄二 実務経験 の有無 後期 前期: 時間(回数: 回) 後期:2 二級自動車シャシ<日本自動車整備振興会>	探求 英文名 (Chas 小川 栄二 実務経験 の有無 有 選択 必修 後期 前期: 時間(回数: 回) 後期:2時間(匠工級自動車シャシ<日本自動車整備振興会>	探求 英文名 (Chassis) 小川 栄二 実務経験 の有無 の有無 の有無 の有無 必修 必修 本修 必修 後期 前期: 時間(回数: 回) 後期:2時間(回数:16 二級自動車シャシ<日本自動車整備振興会>	探求 英文名 (Chassis) 小川 栄二 実務経験 の有無 有 選択 必修 区分 後期 前期: 時間(回数: 回) 後期:2時間(回数:16回) 二級自動車シャシ<日本自動車整備振興会>	探求 英文名 (Chassis) 小川 栄二 実務経験 の有無 有 選択 必修 区分 専門科目 後期 前期: 時間(回数: 回) 後期:2時間(回数:16回) 授業時数 二級自動車シャシ<日本自動車整備振興会>		

シャシ整備の各項目における分解・点検・組付け方法など具体的に説明し、故障探求や良否の判定 及び整備の方法について、正しく理解する。

【授業計画】	コマシラバス(前 期)		コマシラバス(後 期)						
1		1	ホイール・アライメント タイヤ						
2		2	大型車のタイヤ&ホイール トルク管理等						
3		3	ブレーキ 構造・性能 ABS 及び TCR						
4		4	その他のブレーキ エア・油圧式 フル・エア式他						
5		5	補助ブレーキ EX ブレーキ及びリターダ						
6		6	ブレーキの整備 保守に関る点検・整備						
7		7	フレーム及びボデー						
8		8	後期中間試験						
9		9	AT 車上点検及び油圧試験 ストール・テスト他						
10		10	アクスル&サスペンション 点検・調整等						
11		11	ステアリング装置 油圧点検及び保守に関る点検・整備						
12		12	フレーム及びボデーに関する整備						
13		13	シャシ全般及び荷重計算について						
14		14	自動車シャシに関る潤滑及び潤滑剤について						
15		15	自動車シャシに関る故障探求の進め方						
16		16	学年末試験						
授業方法 (授業の進め方)		用し、講義形式で行う。基本的には前回の復習からは まとめへと展開する。状況に応じ練習問題や課題プリ めるよう努める。							
到達目標	当該科目において、二級自動車 する。	重整備	計士の技能登録試験 合格レベルへの到達を目標と						
成績評価の 方法と基準	中間・期末考査において テス合計し、100点法で算出のうえ 6		80% 出席率:10% 授業態度:10%以上3項目を 以上を認定とする。						
授業時間以外に 必要な学修									
履修に当たって の留意点 授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上 整理や言葉遣い、積極的 姿勢など平素の行動を評価するものである。 また、出席数は一種養成が しての基準を満たす必要がある。									
の留意点		, v	、879。 みた、山州教は、1生食以爬以目だ仅と						

教材 二級ガソリン自動車 エンジン編<日本自動車整備振興会連合会> 教具 二級自動車シャシ<日本自動車整備振興会連合会>		//(人/パッコー 国 7 m/m 19 // こ / 国											
担当者 永尚 淳 の有無 月 必修 必修 区分 専門科目・講開講期 開講期 後期 前期: 時間(回数: 回) 後期:2時間(回数:16回) 授業時数 32 日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本	科目名	自動車整		(Electrical Trouble shooting)									
教材 二級ガソリン自動車 エンジン編<日本自動車整備振興会連合会> 教具 二級自動車シャシ<日本自動車整備振興会連合会>	担当者		永岡 淳		有		必修		専門科目	・講義			
教具 二級自動車シャシ<日本自動車整備振興会連合会>	開講期	後期	後期:2時間(回数:16回) 授業時数					32 時間					
担当者 の実務 自動車ディーラーにて自動車整備 経験		自動車ディーラーにて自動車整備											

1 学年次の学習内容をもとに 自動車の電装品について、各システムの点検や整備の方法及び故障探求の 方法など正しく理解し、より具体的に習得する。

【授業計画】	コマシラバス(前 期)		コマシラバス(後 期)						
1		1	始動装置 システム点検						
2		2	"単体点検 良否判定及び整備						
3		3	充電装置 システム点検						
4		4	" 単体点検 良否判定及び整備						
5		5	エンジン点火装置 システム点検						
6		6	ル 単体点検 良否判定及び整備						
7		7	電子制御装置 系統別故障診断の方法						
8		8 後期中間試験							
9		9	電子制御装置 単体点検 自己診断機能						
10		計器及び警報装置 断線警告機能他							
11		11	空調システム エア・コンディショナ						
12		12	リ エア・ミックス方式 冷凍サイクル						
13		13	" エアコン・ガス回収及び充填方法						
14		14	安全装置 SRS エア・バッグ シート・ベルト						
15		15	その他 カー・ナビゲーションシステム						
16		16	学年末試験						
授業方法 (授業の進め方) 教科書を中心に BIG PAD を使用し、講義形式で行う。基本的には前回の復習 じまり 本時の(狙い)及び本時のまとめへと展開する。また練習問題や課題 トを取り入れ、より理解を深めるよう努める。									
到達目標	二級自動車整備士の技能登録記	式験	合格レベルを到達目標とする。						
成績評価の 方法と基準	中間・期末考査において テス を合計し 100 点法で算出のうえ (80% 出席率:10% 授業態度:10%以上3項目 以上を認定とする。						
授業時間以外に 必要な学修									
履修に当たって の留意点	- 「								
-	姿勢など平素の行動を評価する。								

科目名		学 力学、数学、図面 十、潤滑剤、材料	英文名	(Dy	Automotive Engineering (Dynamics Mathematics Drawing Fuel&Luburicant Material)							
担当者		小川 栄二	実務経験 の有無	有	選択	必修	科目区分	専門科目	· 講義			
開講期	通年	前期: 時間(回数:	後期:21	時間(回	授業時数	32 時間						
教材教具	自動車整備士計算の基礎と問題<公論出版> 機械製図ワークノート<実教出版> 二級自動車シャシ<日本自動車整備振興会連合会> 二級ガソリン自動車 エンジン編<日本自動車整備振興会連合会> 二級ジーゼル自動車エンジン編<日本自動車整備振興会連合会>											
担当者 の実務 経験	自動車デ	ィーラーにて自動車整	備									

力学・数学における基本的な考え方を習得することを目的としている。歯車装置、自動車走行性能 及び荷重計算、また電気や圧力の計算問題など公式をもとに正しく理解し解決する能力を身につける。

【授業計画】	コマシラバス(前 期)	コマシラバス (後 期)						
1		1	荷重 (テコの原理) 計算					
2		2	圧力 パスカルの原理 計算					
3		3	変速比 計算					
4		4	出力(仕事率) 計算					
5		5	トルク 駆動トルク 駆動力 計算					
6		6	速度 車速 計算					
7		7	トルコン性能 計算					
8		8	後期中間試験					
9		9	走行抵抗 計算					
10		10	排気量 圧縮比 平均ピストン速度 計算					
11		11	オームの法則 計算					
12		12	合成抵抗 計算					
13		13	電力 計算					
14		14	計算問題まとめ 1					
15		15	5 計算問題まとめ2					
16		16	学年末試験					
授業方法 (授業の進め方)		用し、講義形式で行う。項目ごとに前回の復習からは まとめへと展開する。状況に応じ練習問題や課題プリ めるよう努める。						
到達目標			できていること。 単元終了時に小テストにより いては、二級自動車整備士合格レベルへの到達					
成績評価の 方法と基準	中間・期末考査において テス を合計し、100 点法で算出のうえ		80% 出席率:10% 授業態度:10%以上3項目 点以上を認定とする。					
授業時間以外に 必要な学修								
履修に当たって の留意点								

	派及水・1 国内間は 10 分と) む										
科目名	機器の	構造取扱 検査機器	英文名	Е	ling	2-13					
					Inspection equipment						
担当者		中﨑 太	実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目	・講義		
開講期	前期	前期:2 時間(回数	(:16回)	後期	: 時間	(回数:	回)	授業時数	32 時間		
教材 教具	自動車相	自動車検査用機械器具の構造と取扱<日本自動車機械工具協会>									
担当者											
の実務	自動車ディーラーにて自動車整備										
経験											

自動車検査用の機械器具について、関係法令をもとに機器の構造及び取扱い方法から保守管理ま で正しく理解する。

【授業計画】 コマシラバス(前 期)			コマシラバス(後 期)				
1	自動車検査用機	械器具に関する法令	1				
2	サイド・スリッ	プテスタ	2				
3	ブレーキ・テス	<i>A</i>	3				
4	速度計試験機		4				
5	前照灯試験機(ヘッド・ライト・テスタ)	5				
6	音量計 騒音計		6				
7	前期中間試験		7				
8	一酸化炭素及び	炭化水素測定器	8				
9	黒煙測定器及び	オパシメータ	9				
10	サイド・スリップテスタ 復習 (測定方法)						
11	ブレーキ・テスタ 復習 (測定方法)						
12	速度計試験機 復習 (測定方法)						
13	前照灯試験機 音量計 騒音計 復習 (測定方法)						
14	一酸化炭素及び炭化水素測定器 復習 (測定方法)						
15	黒煙測定器及びオパシメータ 復習 (測定方法)						
16	検査用機器のま	とめ 科目終了テスト	16				
授業万法 はじまり 本時の(狙い)			本時の	講義形式で行う。基本的には前回の復習から まとめへと展開する。また練習問題や課題プリ こう努める。			
到達目標 二級自動車整備士の技		二級自動車整備士の技能登録	試験	合格レベルへの到達を目標とする。			
	戈績評価の 5法と基準	中間及び前期期末試験において テスト:80% 出席率:10% 授業態度:10%以上3項目を合計し、100点法で算出のうえ 60点以上を認定とする。					
	授業時間以外に ・自宅学習により当該科目の一 ・課題やレポート等の提出は打						
▲ 履修に当たって			ものて	Rり、机上 整理や言葉遣い、積極的に取り組む である。 また、出席数は一種養成施設指定校と			

が 及来が 1 中国 間間 10 分 こ) 3									
科目名	自動車検査		英文名	Automobile inspection					2-14
担当者	永岡 淳		実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目	1・講義
開講期	前期 前期:2時間(回数:16回) 後期: 時間(回数: 回) 授業時数 32時間						32 時間		
教材 教具	自動車整備士の法令教本<公論出版> 自動車整備士2級ガソリン 練習問題集<公論出版> 自動車整備士2級ジーゼル 練習問題集<公論出版>								
担当者 の実務 自動車ディーラーにで自動車整備 経験									
【学校内容】利日の初い(日的)									

【学修内容】科目の狙い(目的)							
自動車の登録制度や保安基準、点検・整備及び検査、さらに自動車の整備事業について関係法令							
を	と熟知し正しく ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		1	411			
【授業計画】 コマシラバス(前 期)			コマシラバス(後 期)				
1	関係法令の概要	説明	1				
2	自動車整備士技	能検定制度のあらまし	2				
3	自動車に対する	法規制の概要	3				
4	道路運送車両〈	抜粋〉	4				
5	道路運送車両法		5				
6	自動車の登録		6				
7	道路運送車両の位	呆安基準	7				
8	まとめ 前期中	間試験	8				
9	道路運送車両の	点検及び整備	9				
10	道路運送車両の検査等						
11	自動車整備士の技能検定						
12	自動車の整備事業						
13	道路運送車両法	施行規則の別表	13				
14	自動車点検基準		14				
15	日常点検基準と対	定期点検基準	15				
16	点検基準まとめ	前期末試験	16				
┃ 授業万法 ┃		ずのまと	講義形式で行う。項目ごとに前回の復習から おへと展開する。状況に応じ練習問題や課題 るよう努める。				
			できていること。 単元終了時に小テストにより いては、二級自動車整備士合格レベルを到目				
成績評価の 方法と基準 申間・期末考査において テス 目を合計し、100 点法で算出の		スト:80% 出席率:10% 授業態度:10%以上3項)うえ 60点以上を認定とする。					
授業時間以外に ・自宅学習により当該科目の予 ・課題やレポート等の提出は提							
煩修に当たって		ものて	民り、机上 整理や言葉遣い、積極的に取り組む である。 また、出席数は一種養成施設指定校と				

科目名	自動車法規 自動車整備に関する法規	英文名	Laws®ulations Automobile maintenance				e	2-15
担当者	永岡 淳	実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目	・講義
開講期	後期 前期: 時間(回	数: 回)	後期:2時間(回数:16回) 授業時数				授業時数	32 時間
教材 教具	自動車整備士の法令教本<公論出版> 自動車整備士2級ガソリン 練習問題集<公論出版> 自動車整備士2級ジーゼル 練習問題集<公論出版>							
担当者 の実務 経験	実務 自動車ディーラーにで自動車整備							

動車の登録制度や保安基準、点検・整備及び検査、さらに自動車の整備事業について関係法令を 熟知し正しく理解する。

┃ 複修に当たって ┃									
2 総則・褒要 自動車の保安基準	【授業計画】 コマシラバス(前 期)				コマシラバス (後 期)				
3 自動車の保安基準	1	1		1	道路運送車両法の保安基準				
4	2			2	総則・概要				
5	3		3	自動車の保安基準					
6 3第12条~20条 7 9第21条~30条 8 保安基準まとめ 後期中間考査 9 5第31条~40条 10 6第41条~53条 11 自動車NOx・PM法 12 検査機器について 13 2級自動車整備士国家試験受験対応授業① 14 14 2級自動車整備士国家試験受験対応授業② 15 2級自動車整備士国家試験受験対応授業② 16 保安基準まとめ 後期期末考査 17 2級自動車整備士国家試験受験対応授業② 18 2級自動車整備士国家試験受験対応授業② 18 2級自動車整備士国家試験受験対応授業② 19 2級自動車整備士国家試験受験対応授業② 19 2級自動車整備士国家試験受験対応授業② 10 2級自動車整備士国家試験受験対応授業② 11 2級自動車整備士国家試験受験対応授業② 12 2級自動車整備士国家試験受験対応授業② 12 2級自動車整備士国家試験受験対応授業② 13 2級自動車整備士国家試験受験対応授業② 14 2級自動車整備士国家試験受験対応授業② 15 2級自動車整備士国家試験受験対応授業② 16 2級自動車整備士国家試験受験対応授業② 16 2級自動車整備士をのよどのへと展開する。状況に応じ練習問題や課題 プリントを取り入れ、より理解を深めるよう努める。 担定者の進われ、より理解を深めるよう努める。 表項目における基礎・基本が理解できていること。単元終了時に小テストにより 70%以上を目指す。二級自動車整備士合格レベルを到達目標とする。 成績評価の 方法と基準 を合計し、100点法で算出のうえ 60点以上を認定とする。 投業時間以外に 必要な学修 ・再選やレポート等の提出は提出期日を厳守する。 投業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、積極的に取り組む を効かと必要の行動を評価するものである。また。出度数は一種養成権数となど	4		4	①第1条~10条					
7	5			5	②第 11 条~20 条				
8 保安基準まとめ 後期中間考査 9 ⑤第31条~40条 10 ⑥第41条~53条 11 自動車NOx・PM法 12 検査機器について 13 2級自動車整備土国家試験受験対応長業① 14 14 2級自動車整備土国家試験受験対応長業② 15 2級自動車整備土国家試験受験対応長業② 16 保安基準まとめ 後期期末考査 「授業方法 (授業の進め方) はじまり 本時の目標 及び本時のまとめへと展開する。状況に応じ練習問題や課題プリントを取り入れ、より理解を深めるよう努める。 科理目標	6			6	③第 12 条~20 条				
9	7			7	④第 21 条~30 条				
10	8			8	保安基準まとめ 後期中間考査				
11	9			9	⑤第 31 条~40 条				
12 検査機器について 13 2級自動車整備土国家試験受験対応授業① 14 2級自動車整備土国家試験受験対応授業② 15 2級自動車整備土国家試験受験対応授業② 15 2級自動車整備土国家試験受験対応授業② 16 保安基準まとめ 後期期末考査 授業方法 (授業の進め方) が科書を中心に BIG PADを使用し、講義形式で行う。項目ごとに前回の復習からはじまり 本時の目標 及び本時のまとめへと展開する。状況に応じ練習問題や課題プリントを取り入れ、より理解を深めるよう努める。 科理目標 各項目における基礎・基本が理解できていること。単元終了時に小テストにより70%以上を目指す。二級自動車整備士合格レベルを到達目標とする。 成績評価の 方法と基準 中間・期末考査において テスト:80% 出席率:10%授業態度:10%以上3項目を合計し、100点法で算出のうえ 60点以上を認定とする。 授業時間以外に 必要な学修 ・自宅学習により当該科目の予習・復習を心掛ける。・課題やレポート等の提出は提出期日を厳守する。 履修に当たって 授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、積極的に取り組むな勢など必要の行動を延備するものである。また。出度数は一種養成施設指定核と	10			10	⑥第 41 条~53 条				
13 2級自動車整備士国家試験受験対応授業① 14 2級自動車整備士国家試験受験対応授業② 15 2級自動車整備士国家試験受験対応授業③ 16 保安基準まとめ 後期期末考査 接業方法 (授業の進め方) 数科書を中心に BIG PAD を使用し、講義形式で行う。項目ごとに前回の復習からはじまり 本時の目標 及び本時のまとめへと展開する。状況に応じ練習問題や課題プリントを取り入れ、より理解を深めるよう努める。 各項目における基礎・基本が理解できていること。 単元終了時に小テストにより70%以上を目指す。二級自動車整備士合格レベルを到達目標とする。 成績評価の 方法と基準 中間・期末考査において テスト:80% 出席率:10%授業態度:10%以上3項目を合計し、100点法で算出のうえ 60点以上を認定とする。 投業時間以外に 必要な学修 ・自宅学習により当該科目の予習・復習を心掛ける。 ・課題やレポート等の提出は提出期日を厳守する。 授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、積極的に取り組むを数かとい正素の行動を評価するものである。 また 出度数は一種養成施設均定核とな数かとい正素の行動を評価するものである。 また 出度数は一種養成施設均定核とな数がといます。 13	11			11	自動車NOx・PM法				
14 15 16 16 16 16 16 16 16	12			12	検査機器について				
15 16 15 2級自動車整備士国家試験受験対応授業③ (探募基準まとめ 後期期末考査 教科書を中心に BIG PAD を使用し、講義形式で行う。項目ごとに前回の復習からはじまり 本時の目標 及び本時のまとめへと展開する。状況に応じ練習問題や課題プリントを取り入れ、より理解を深めるよう努める。 各項目における基礎・基本が理解できていること。 単元終了時に小テストにより70%以上を目指す。二級自動車整備士合格レベルを到達目標とする。 成績評価の 方法と基準 中間・期末考査において テスト:80% 出席率:10%授業態度:10%以上3項目を合計し、100点法で算出のうえ 60点以上を認定とする。 ・自宅学習により当該科目の予習・復習を心掛ける。 ・課題やレポート等の提出は提出期日を厳守する。 授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上 整理や言葉遣い、積極的に取り組むな数など正素の行動を評価するものである。また。出度数は一種養成施設指定校と	13			13	2級自動車整備士国家試験受験対応授業①				
16 探安基準まとめ 後期期末考査 教科書を中心に BIG PAD を使用し、講義形式で行う。項目ごとに前回の復習からはじまり 本時の目標 及び本時のまとめへと展開する。状況に応じ練習問題や課題プリントを取り入れ、より理解を深めるよう努める。 各項目における基礎・基本が理解できていること。 単元終了時に小テストにより70%以上を目指す。二級自動車整備士合格レベルを到達目標とする。 成績評価の方法と基準 中間・期末考査において テスト:80% 出席率:10%授業態度:10%以上3項目を合計し、100点法で算出のうえ 60点以上を認定とする。 授業時間以外に 必要な学修 ・ 自宅学習により当該科目の予習・復習を心掛ける。 ・ 課題やレポート等の提出は提出期日を厳守する。 投業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、積極的に取り組む変勢などで素の行動を評価するものである。 また 出席数け一種養成施設指定校と	14			14	2級自動車整備士国家試験受験対応授業②				
授業方法 (授業の進め方) 教科書を中心にBIG PADを使用し、講義形式で行う。項目ごとに前回の復習からはじまり本時の目標及び本時のまとめへと展開する。状況に応じ練習問題や課題プリントを取り入れ、より理解を深めるよう努める。 各項目における基礎・基本が理解できていること。単元終了時に小テストにより70%以上を目指す。二級自動車整備士合格レベルを到達目標とする。 成績評価の方法と基準 中間・期末考査においてテスト:80% 出席率:10%授業態度:10%以上3項目を合計し、100点法で算出のうえ60点以上を認定とする。 授業時間以外に必要な学修 ・課題やレポート等の提出は提出期日を厳守する。 履修に当たって 授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、積極的に取り組むな動かが正素の行動を評価するものである。また、出席物は一種養成施設指定校と	15	15			2級自動車整備士国家試験受験対応授業③				
授業方法 (授業の進め方) はじまり 本時の目標 及び本時のまとめへと展開する。状況に応じ練習問題や課題 プリントを取り入れ、より理解を深めるよう努める。 各項目における基礎・基本が理解できていること。 単元終了時に小テストにより 70%以上を目指す。二級自動車整備士合格レベルを到達目標とする。 成績評価の 方法と基準 中間・期末考査において テスト:80% 出席率:10%授業態度:10%以上3項目を合計し、100点法で算出のうえ 60点以上を認定とする。 授業時間以外に 必要な学修 ・ 課題やレポート等の提出は提出期日を厳守する。 「機業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、積極的に取り組む 変熱など平素の行動を評価するものである。また。出席数は一種養成施設指定校と	16	6			保安基準まとめ 後期期末考査				
到達目標 70%以上を目指す。二級自動車整備士合格レベルを到達目標とする。 成績評価の	授業方法 はじまり 本時の目標 及び本時(授業の進め方)		幹のまとめへと展開する。状況に応じ練習問題や課題						
方法と基準 を合計し、100点法で算出のうえ 60点以上を認定とする。 授業時間以外に ・自宅学習により当該科目の予習・復習を心掛ける。 ・課題やレポート等の提出は提出期日を厳守する。 授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、積極的に取り組む 変勢など平素の行動を評価するものである。また、出席数は一種養成施設指定校と	到達目標								
必要な学修 ・課題やレポート等の提出は提出期日を厳守する。 授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、積極的に取り組む 姿勢など平素の行動を評価するものである。また、出席数は一種養成施設指定校と	, ,								
複修に当たって									
しての基準を満たす必要がある。	腹修に当たって 姿勢								